

## 生活産業資材事業

生活に密着した素材・技術を持続可能な形で提供することを通じ、将来にわたって人々の暮らしをより快適にし、社会全体の豊かさの向上に貢献する「生活・社会サポート企業」を目指します。

産業資材カンパニー プレジデント ◆ 渡 良司  
生活消費財カンパニー プレジデント



### ▶ 事業概要

2017年度は、売上高6,513億円（対前年+310億円）、営業利益54億円（対前年▲134億円）でした。産業資材事業は、原燃料価格上昇影響が大きく、製品価格改定およびコストダウンを進めましたが、減益となりました。生活消費財事業は、トイレトペーパーの販売数量増により前期比で売上高増となりました。

2018年度は、売上高6,900億円（対前年+387億円）、営業利益200億円（対前年+146億円）を計画しています。産業資材事業は、国内は効率化等による事業基盤強化を図り、海外事業拡大と合わせ増収

増益を見込んでいます。生活消費財事業は、家庭紙事業・紙おむつ事業ともにブランド価値を向上させて一層の収益力強化を図っていきます。



## 産業資材事業

### ▶ 事業環境

国内では、全国に広がる販売チャンネルと、素材・加工一貫による提案力とを二つの軸として、幅広く事業を推進・拡大しており、段ボール原紙、白板紙、包装用紙の国内シェア1位を占めています。海外では、マレーシア・カンボジアにおいて高い市場シェアを得ている他、インド・オセアニアにおける事業拡大に注力しています。

以上の事業環境下で想定されるリスクは、原燃料価

格高騰や、海外における政府方針・法制度の突然の変更等であり、さらに国内での少子高齢化・新興国での人口増加を受けてお客様のニーズはダイナミックに変化しています。当グループはリスクへの対応とニーズの充足とを両立させ、将来にわたって国内外パッケージング事業でのプレゼンス向上を図っていきます。

## ▶ 事業戦略

国内では、素材部門では高い市場シェアを維持しつつ徹底したコスト競争力強化を図り、加工部門では積極的なM&Aを推進することで、素材・加工一貫での事業展開をより一層推進していきます。また海外

においても、地域・市場ごとにリスクとリターンを見極め、新規拠点の設立とM&Aを効果的に使い分け、事業拡大を進めていきます。

### 海外事業の拡大

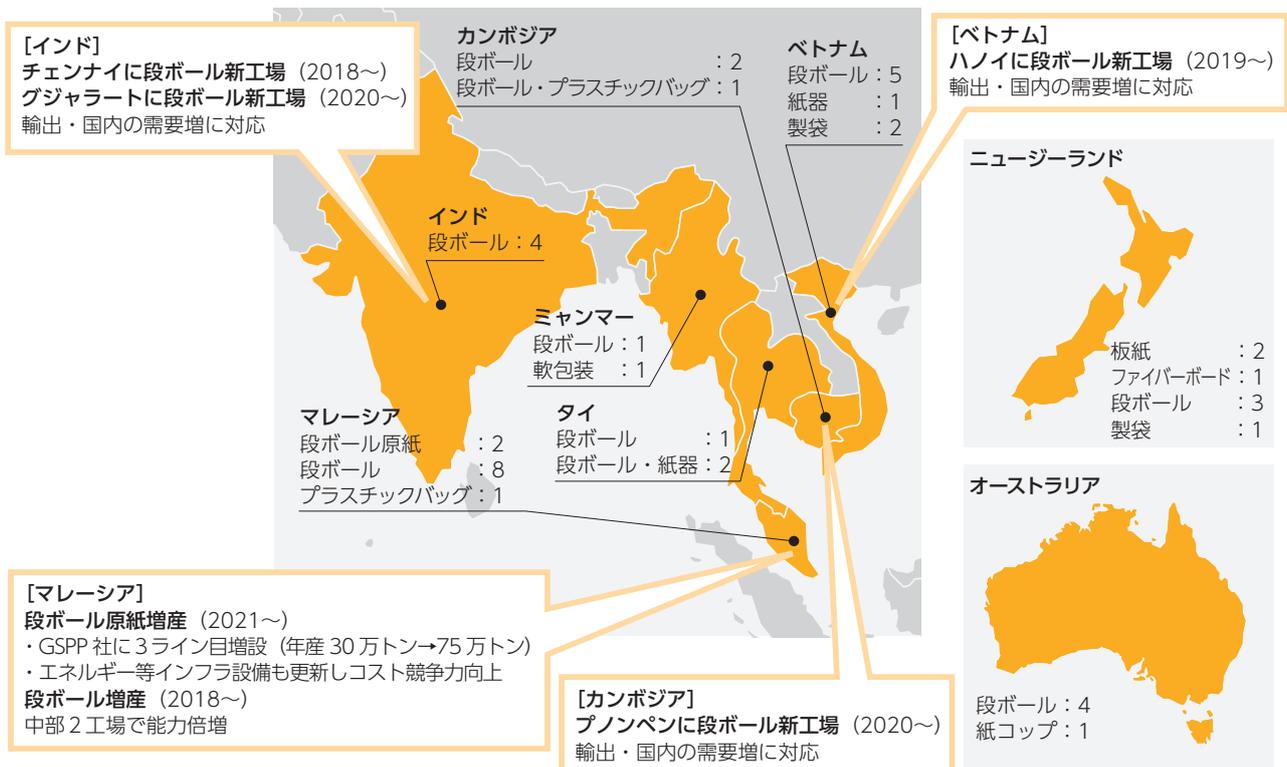
当カンパニーは東南アジア・インド・オセアニア地域の8ヶ国、43拠点で事業展開しています。増大するパッケージ需要に応えるべく加工拠点の増設・増強を進めており、加えてマレーシアにて段ボール原紙生産設備の増設を決定しました。原紙マシン増設とエネルギー供給および用排水設備の更新により、原紙の高品質化・薄物化へのユーザーの要望に応えるとともに、グループでの原紙自給率とコスト競争力の向上によって、事業基盤の強化を図ります。

### 国内事業の集中・進化

国内では、千葉県船橋市にて段ボール新工場の建設を決定しました。これにより、関東地区の需要拡大を取り込むことは勿論ですが、大消費地の近隣という立地に加え、生産性の高い工場とすることで、輸送も含めてエネルギー消費の少ない事業拠点とすることを目指しています。

今後も、需要拡大と環境負荷の両面に対応した設備投資を行い、パッケージング市場における事業基盤をより確固たるものとしていきます。

## ● 東南アジア・インド・オセアニアの主な事業拠点



## ▶ 事業戦略トピックス

堅調な経済成長が見込まれる東南アジア、オセアニア地域の需要拡大を取り込むために継続的に投資を実行しています。既存工場における増産投資に加え、2018年にはインド南部チェンナイで、2019年には

ベトナム北部ハノイで、そして2020年にはカンボジアのプノンペンとインド西部グジャラートで、段ボールの新工場稼働を予定しています。さらに未進出国への投資についても検討を進めています。



ベトナム北部新工場（完成予想図）



インド南部新工場（完成予想図）

## ▶ よりよい社会のために



### リサイクルの推進—機密古紙の溶解処理

王子マテリア江戸川工場では機密古紙が高度なセキュリティで守られた溶解設備により、段ボールに梱包されたまま溶解されて白板紙に生まれ変わっています。情報セキュリティを保ちながら環境にも配慮できるシステムにより、持続可能な社会実現に寄与しています。

### 災害時物資供給協定(王子コンテナ&森紙業)

万が一の事態の際、避難されている皆様の安心と安全に少しでも役立てるように、全国各地の段ボール工場と近隣自治体とで「災害時物資供給協定」を締結しています。避難所で使用する段ボール製のベッド、シート、間仕切り、簡易トイレを迅速にお届けします。

## VOICE : Harta Chang Kee Soon (社長)

### カンボジア市場のニーズに応え続けていくために

2004年、Hartaグループはカンボジアの主力産業である縫製業向け段ボールをターゲットとして、首都プノンペンに初進出いたしました。王子グループの一員となった後の2013年には港湾都市シハヌークビルに第2工場を設立し、需要が拡大する飲料食品向けを中心に段ボールの拡販に努め、現在同国でトップシェアを獲得しています。カンボジアの第3工場が2020年にプノンペンで稼働することも新たに決定し、王子グループがカンボジアの段ボール業界のリーダーであり続けられるよう全力で取り組んでまいります。



## 生活消費財事業

### ▶ 事業環境

家庭紙事業の国内市場は、訪日外国人観光客の増加による下支え影響で、業界全体の出荷量は横ばいとなっている一方で、保湿商品等の高付加価値商品の需要の伸びが期待されています。

紙おむつ事業の国内市場は、今後ますます進む少子高齢化の影響を見据えた取り組みが重要です。

王子グループでは、子ども用紙おむつは昨年より高

品質紙おむつWhitoを上市し、高価格市場の開拓を進めています。大人用紙おむつは高齢者の増加や介護職の人材不足等による介護現場の変化やニーズに合わせた商品開発を強化しています。

また、海外市場では、重点的に取り組んでいる中国・東南アジア市場において、経済レベル向上に伴い、品質を重視した紙おむつの需要が高まっています。

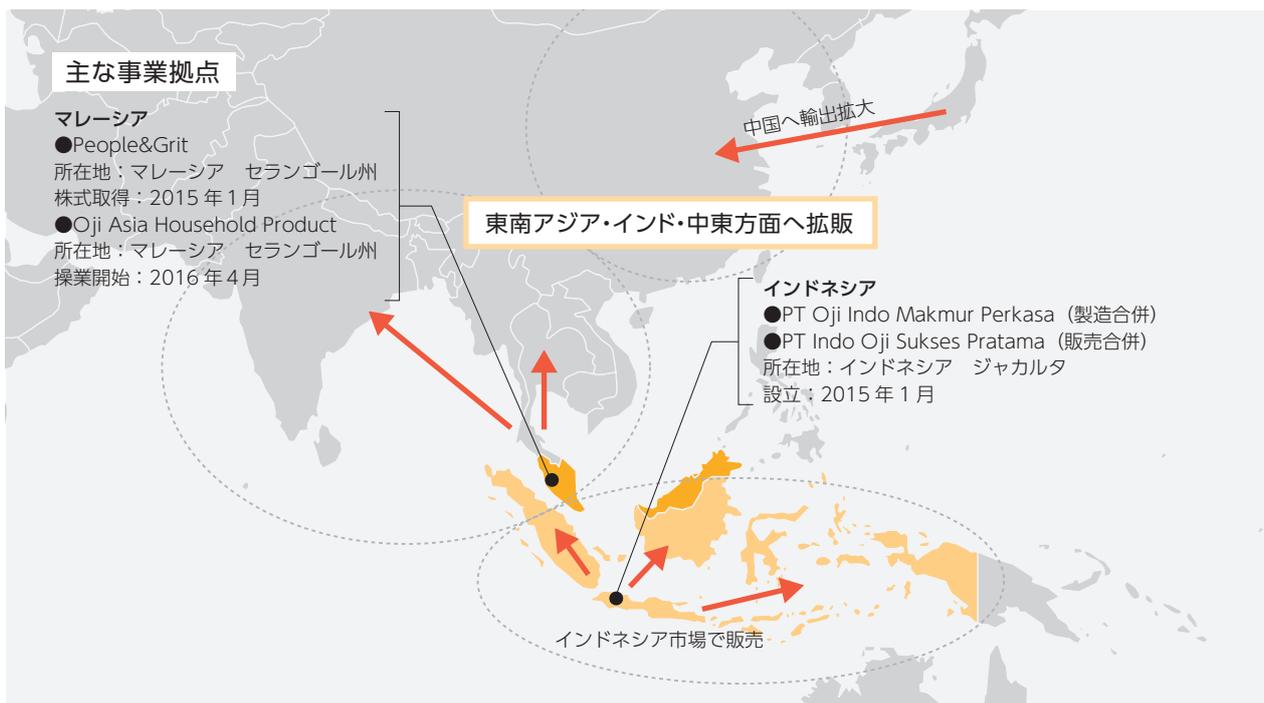
### ▶ 事業戦略

国内では家庭紙の「ネピア」、子ども用紙おむつの「ネピアGenki!」「ネピアWhito」、大人用紙おむつ「ネピアテンダー」のブランド価値向上を目指していきます。

また、営業・マーケティング・生産が一体となって取り組み、市場地位向上を図っていきます。家庭紙分野においては三菱製紙との合併事業も進めています。

### 海外事業の拡大

子ども用紙おむつの消費拡大が見込まれる東南アジア市場の開拓を進め、マレーシアの2拠点に加え、域内最大人口を持つインドネシアでの生産工場建設も計画。さらにM&Aを含めた投資による積極的な事業拡大も視野に入れています。また中国等日本製品への嗜好が高い地域・顧客層をターゲットに日本からの輸出拡大も進めています。



国内事業の集中・進化

家庭紙事業は、「ネピア」ブランド全体のブランド価値を向上し、消費者視点の商品開発で競合優位を生み出します。高付加価値商品や、森林認証であるFSC®普及活動を活発化させる環境配慮型商品、千のトイレプロジェクト等社会貢献型商品に対する消費者の認知向上と市場シェア拡大に取り組んでいきます。

紙おむつ事業は、子ども用紙おむつにおいて「ネピア Genki!」に加え、2017年10月に王子史上最高品質ブランド「ネピアWhito」を全国発売しました。Whitoは独自技術で飛躍的に向上させた性能や、お客様の紙おむつの使用実態に着目した「3時間用」と「12時間用」の使い分け等、市場の競争軸を変える提案が高く評価され、「2017年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞 日経MJ賞」と、第10回ペアレンティングア

ワード「モノ部門」を受賞しました。今後も高品質・高価格おむつとしてブランドの育成を進めていきます。大人用紙おむつ「ネピアテンダー」においても、介護現場が抱える課題を解決する商品の開発を続けていきます。



子ども用紙おむつ「ネピアWhito」



▶ よりよい社会のために

王子ネピアでは、nepia Qualityの考えのもと3つの品質（生活品質・環境品質・社会品質）でNo.1を目指す取り組みを行っています。特に「環境品質」において、業界に先駆けて2011年より主要商品にFSC®認証紙を採用しています。さらに、2017年からはWWFジャパンと提携し、森林保護を訴求するロゴマークを作成、FSC®認証紙の普及促進に一層力を注いでいます。

ネピアの紙は FSC® 認証紙です。



「FSC®C018118」

WWFはFSC®認証を応援しています。ネピアの紙は、森を守る紙FSC®認証紙®です。『FSC®のネピアを選ぶことは世界の森を守ることです』と消費者に呼びかけています。※一部商品を除きます。

© 1986 Panda symbol WWF ® "WWF" is a WWF Registered Trademark

VOICE : Oji Asia Household Product      Lim Hooi Yin (Regional Marketing Director)

マレーシアの赤ちゃんにGenki!を!

2年前Genki!の販売を始めた時は、一からの立上げで厳しいスタートとなりましたが、現地の著名俳優をブランド大使に任命したり、Genki!にスポットをあてたテレビ旅番組の放映等様々な活動を実施した結果、多くのマレーシアのママたちに“Genki!”を試していただくことができました。2017年末時点で2,000以上の店舗で販売されており、マレーシアハイパーマーケットチャネルのトップ5ブランド入りを果たしています。今後もブランドの浸透と販売拡大を目指します。



## 機能材事業

世界市場に向けて、研究開発・製造・営業が一体となった総合提案力を強化し、お客様のご要望に迅速かつ確な対応を行い、高付加価値品の開発を進め、王子グループを「革新的価値創造企業」へとリードします。

機能材カンパニー プレジデント

◆ 瀧上 一雄



### ▶ 事業概要

2017年度は、売上高2,208億円(対前年+32億円)、営業利益186億円(対前年+11億円)となりました。原燃料価格の大幅高騰の影響がありましたが、南米・アジア地域等の新興国を中心に感熱紙の販売拡大による増収に加え、コストダウン施策等により、増益となりました。

2018年度は、売上高2,260億円(対前年+52億円)、営業利益190億円(対前年+4億円)を計画しています。引き続きパルプ・薬品等の原材料単価高騰の影響が懸念されますが、高付加価値製品の開発・拡販、新興国地域での旺盛な需要に対応した感熱紙生産能力

強化による増販効果、また東南アジアにおける事業領域の拡大と、これまで進めてきた生産体制再構築の効果発現等により、増収増益を見込んでいます。



### ▶ 事業環境

国内市場は、従来の紙メディア需要が漸減していく一方、高付加価値製品の需要が高まり、顧客ニーズも多様化しています。また、海外では東南アジアやインド、南米等の新興国の経済発展に伴い、既存製品である感熱紙・粘着紙等の需要が順調に拡大しています。機能材カンパニーでは、長年培ってきた、抄紙、紙加工(塗工・粘着)、フィルム製膜、エアレイド等のコア

技術をベースに、高付加価値や特殊機能・性能を加えた製品(高機能性フィルム、炭素繊維複合材料、ガラスペーパー<sup>※1</sup>、機能性ラベル<sup>※2</sup>、メディカル製品)を迅速に開発し提供します。

多様化する顧客ニーズを着実に捉え、各事業エリアの市場要求に応えるべく、適切なタイミングで必要な投資を柔軟かつ積極的に行っていきます。



※1  
ガラスペーパー(ガラスバー)  
「ブリーツフィルター骨材」  
強度のない濾材と貼合することで  
空気清浄機のブリーツ型フィルター基材に  
使用



※2  
機能性ラベル  
「回収容器用粘着ラベル」  
一般ラベルと同等の粘着力を保持  
しながら、熱水に浸けると粘着力が  
消失して、容易に剥がれる特性を持  
ち、容器リサイクルに貢献する環境  
配慮型ラベル

## ▶ 事業戦略

機能材カンパニーは、強みであるコア技術をさらに洗練し海外技術との融合を図り、事業エリアを拡大するだけでなく、各地域の経済発展に伴い拡大する需要に応じて規模拡大を行ってきました。今後も世界市場

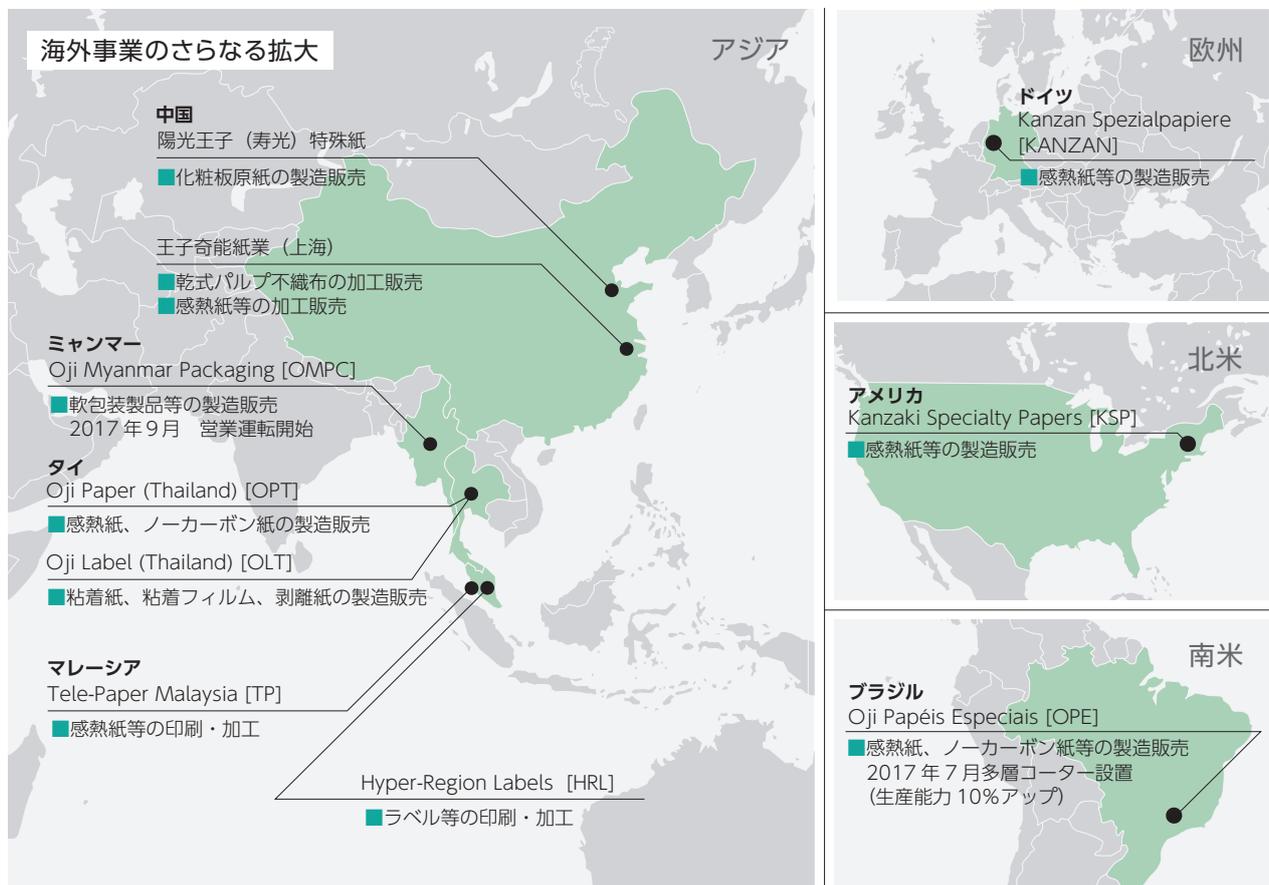
をターゲットにさらなる成長を目指し独自技術を維持・発展させ、新製品の開発、新たな事業エリアの開拓、事業規模の拡大に取り組んでいきます。

### 海外事業の拡大

2017年にマレーシアの粘着製品の印刷・加工メーカーであるHyper-Region Labelsおよび感熱紙等の印刷・加工メーカーであるTele-Paper Malaysiaの株式を取得し、東南アジアでの川上から川下の一貫生産体制を確立したことにより、技術および営業の総合的な支援、提案が可能になりました。また、ミャンマーのOji Myanmar Packagingでは2017年より消費財メーカー向けフィルム等の軟包装事業の営業生産を開始し、新たな市場の開拓に努めています。さらに、ブラジルでの旺盛な感熱需要に対応しOji Papéis Especiaisの生産能力を増強し、増販を図っています。

### 国内事業の集中・進化

高付加価値製品の需要が拡大する可能性が高まる中、これまで培ってきたコア技術と「複合材」「ナノインプリント」等の新技術の融合による熱可塑性複合繊維や光拡散部材等の脱「紙」製品の開発を進めていきます。さらに、「EV・HEV用コンデンサフィルム」「光学機能フィルム」等の高機能フィルム製品の開発を製造拠点併設型「アドバンスフィルム研究所（滋賀）」にて効率的に行い、新たな事業領域への展開を進めていきます。また、継続した生産体制の見直しにより効率を維持し、競争力を高めていきます。



## ▶ 事業戦略トピックス

### 用途に応じた「工程用離型フィルム」

王子エフテックスは、フィルム製膜技術と塗工技術により、スマートフォン等の精密機器組み立て工程で使用される幅広いグレードの離型フィルムを取り揃えています。

シリコン軽剥離シリーズのメリットは軽い剥離性で、ベースフィルム、厚み、帯電防止の有無等、要望に応じた設計が可能です。

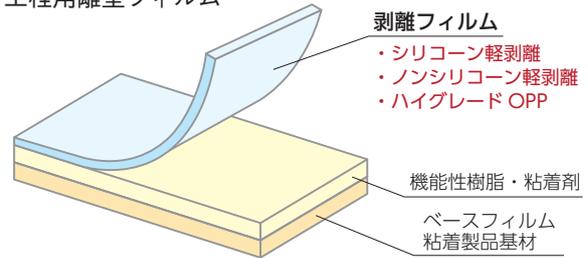
ノンシリコン軽剥離シリーズは、シリコン類等の転移を嫌う分野での剥離フィルム、工程用保護フィルムにおすすめです。

ハイグレードOPP (HGPP) シリーズは、転移成分

が極めて少なく、高平滑・高透明からマット調まで表面状態の制御が可能な、特殊工業用に開発されたOPPフィルムです。

お客様の用途に応じた最適な離型フィルムを提供いたします。

工程用離型フィルム



## ▶ よりよい社会のために

### 新タック化成 メディカル事業

「いかに人へやさしさを提供するか」を考え粘着素材の技術を活かすために、医療や化粧品分野での製品開発を始めました。

そして、その技術と想いは、医療用大型絆創膏、固定用粘着シート、粘着包帯、冷却ジェルシート等の医療機器や医薬部外品、化粧品パックシートのジェル化粧品等、多くの製品となりました。

これからも様々な製品を通じて「たくさんのやさしさ」を提供していきます。



## VOICE : Tele-Paper Malaysia

## Liz Woo (輸出部門 GM)

### 各国に当社の製品とブランドを広めるために

私たちの目標はあらゆる国で、確固たる地位と当社製品に対する評判を得ることです。当社は競合他社と比べ優位性の有る製品を提供するため、様々な提案を行っています。それらの提案は、顧客事業価値、売上高および利益の向上に重点を置いたものでなければなりません。2018年の状況は非常に厳しく、主力製品である感熱紙コストの大幅な上昇が製品価格高騰と供給不足を招いています。王子グループの総合力を活用し、この厳しい状況に打ち勝ちたいと考えています。



## 資源環境ビジネス

王子グループが国内外に保有する設備・不動産・森林資源とその関連技術。これらを総合的に活用した資源環境ビジネスにおいて、事業拡大を積極的に展開していきます。

資源環境ビジネスカンパニー プレジデント

◆ 鎌田 和彦



### ▶ 事業概要

2017年度は、売上高2,985億円（対前年+282億円）、営業利益390億円（対前年+196億円）でした。内訳は海外事業のパルプ価格上昇で+292億円、リアル高によるコスト高▲38億円、原燃料価格差▲43億円他です。

2018年度は売上高3,270億円（対前年+285億円）、営業利益670億円（対前年+280億円）を計画しています。



### ▶ 事業環境

**パルプ事業**／外販パルプ生産能力240万トン/年を有し、生産品種も広葉樹パルプ、針葉樹パルプ、溶解パルプ等多様です。この豊富な品揃え・グループ販売チャネルを活用し、アジア他需要拡大地区での販売を強化します。今後さらに戦略的な収益対策を進め、競争力を確保します。

**バイオマス燃料調達**／製紙原料集荷で培ったネットワークおよび海外展開により獲得したPKS (Palm Kernel Shell: ヤシ殻) の調達力は当社グループの強みです。今後、日本で期待されるバイオマス発電事業の発展とともに、グループ外販も推進していきます。

**木材加工事業**／王子木材緑化、Pan Pac、KTHでの木材加工・商材事業を積極的に展開します。これに加えて2015年には、ニュージーランド南島(Pan Pac Otago)、ミャンマー (MOS Lumber Products) の製材工場が稼働しました。今後も、成長が続く東南アジアを中心に事業拡大を進めていきます。

## ▶ 事業戦略



国内外既存の資源・インフラ等を最大限に活用した新規ビジネスを推進していきます。海外事業展開を加速させるとともに国内・海外のビジネス展開を背

景とした商事機能の強化を図ります。また、既存事業については選択と集中を進めます。

### 海外事業の拡大

木材加工の新工場稼働や製材工場のリニューアルを行う等、アジア・オセアニア地域を中心に生産能力の増強に取り組んでいます。

また、中国・インドネシア・ベトナムに販売会社を設立し、パルプ、バイオマス燃料、木材製品等のグループ外への拡販を手掛け、幅広い分野で商社機能の強化を推し進めています。



建設中のバイオマス発電プラント  
エム・ピー・エム・王子エコエネルギー（青森県八戸市）

### 国内事業の集中・進化

エネルギー事業で設置済みの3基のバイオマス発電設備が順調に稼働し、また、既存の水力発電設備の更新・近代化工事も順調に進捗し、販売電力量は順調に伸張しています。なお、三菱製紙と共同で行うバイオマス発電事業は2019年開始を予定しています。電力小売り事業の分野では、伊藤忠エネクスとの共同電力販売会社が業績を拡大しています。一方、エネルギー事業の拡大に合わせ、未利用の国内木材資源を活用した燃料用チップの生産設備増強による増産を進める等、バイオマス燃料事業の拡充も進めています。

### 王子グループの発電拠点



王子グリーンエナジー江別



王子グリーンエナジー日南



王子製紙苫小牧工場  
千歳第一水力発電所



王子グリーンエナジー白糠  
(太陽光発電)

## ▶ 事業戦略トピックス

パルプ事業では、主要拠点において戦略的な収益対策を実施しています。ニュージーランドのOji Fibre Solutions (NZ) Ltd.では、当社グループのノウハウや操業管理手法等を導入・活用し、操業の安定化および効率化対策に取り組み、ブラジルのCelulose Nipo-Brasileira S.A.では製造設備の最新鋭化等による継続的な収益対策を進め、パルプ市況の変動に耐え得る事業基盤の強化に取り組んでいます。中国の江蘇王子製紙有限公司では2017年10月に2台目のドライパルプの生産設備が営業運転を開始しました。また、国内では溶解パルプ製造設備で従来のレーヨン用途向け製品に加え、医療品材料や濾過材用途等の高付加価値品の生産も開始しています。

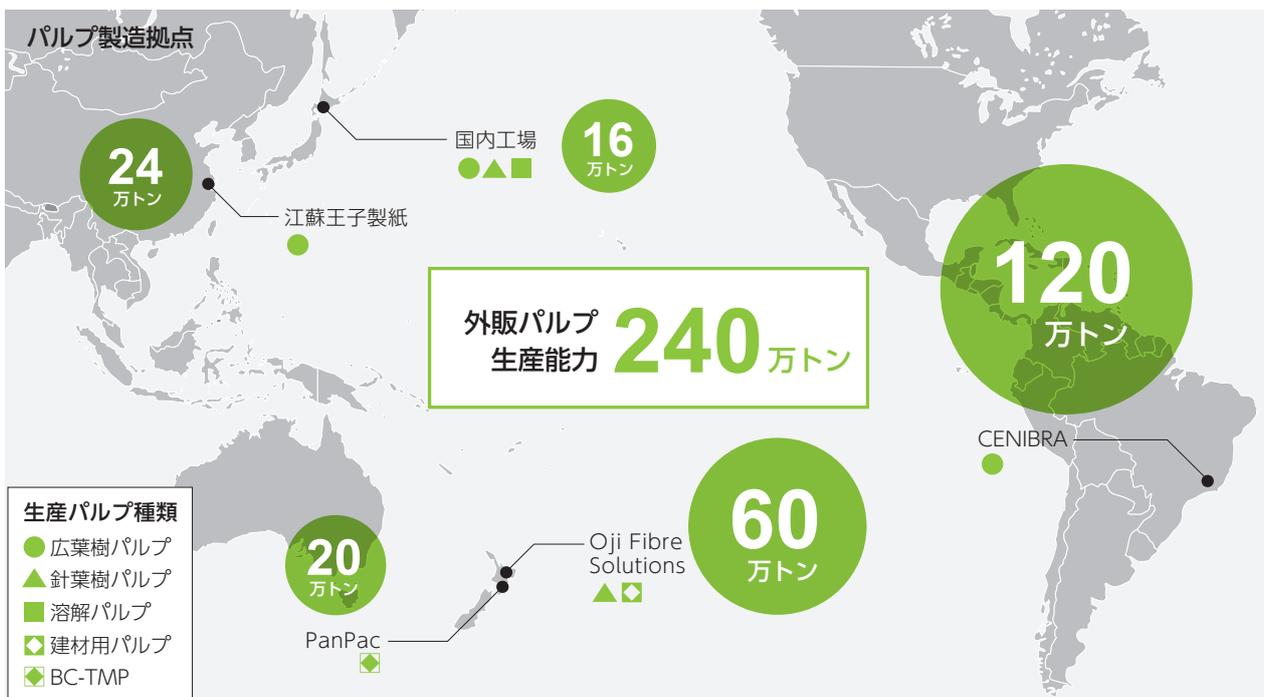


CENIBRA社工場全景  
(ブラジル ミナスジェライス州 ベロ・オリエンテ市)



CENIBRA社植林地

撮影：João Rabelo





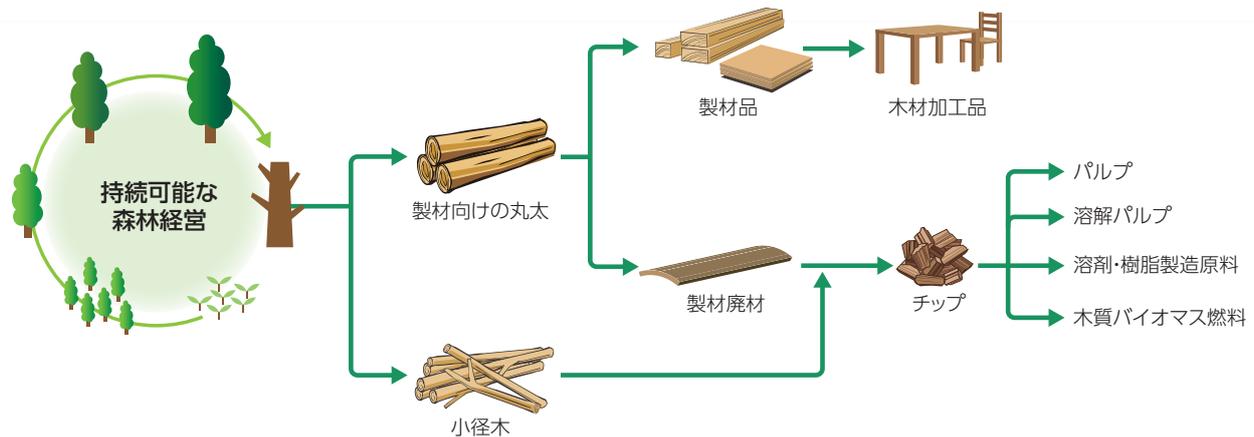
## ▶ よりよい社会のために

### 国産材のカスケード利用

王子グループは持続可能な森林経営により育成された森林資源をカスケード利用することを積極的に推進しています。カスケード利用とは木材資源を付加価値の高い用途を優先しながら、余すことなく総合的に利用することです。例えば、良質の丸太は製材品等の木材加工に、低質材は製紙原料やバイオマスボイラの燃料に活用しています。バイオマスボイラの燃料として利用することで間伐材等の山林未利用資源の活用

が進み、国土保全・水源涵養・二酸化炭素吸収等様々な機能を持つ森林の整備が促進されるとともに、地域林業の活性化にも貢献できるものと考えています。燃料用チップ生産増強のために北海道安平町と青森県むつ市で新チップ工場を稼働させた他、計5チップ工場において間伐未利用材や家屋解体材を加工し、資源の有効活用を図っています。

### 森林資源のカスケード利用



## VOICE : 王子グリーンエナジー江別 金子 悟 (所長)

### 化石燃料の削減と林地残材の積極的な利用

当社は2016年1月に営業運転を開始したグループの中でも新しい会社です。若手従業員が多く、ベテランスタッフとともに活気ある職場を創り上げています。電力の安定供給に努めるのはもちろんのこと、バイオマス発電所の役割である化石燃料の削減のため、PKS（パーム椰子殻）を使用することで石炭レス操業に成功いたしました。今年度は、これまで利用が進んでいなかった北海道の林地残材を、さらに積極的に使用することに取り組んでいきます。



## 印刷情報メディア事業

国内需要構造の変化およびアジア市場との一体化に伴い、需要の変化に即した事業の再構築とキャッシュフローの最大化を継続的に進めています。

印刷情報メディアカンパニー プレジデント

◆ 青山 秀彦



### ▶ 事業概要

2017年度の売上高は3,054億円（対前年+93億円）、営業収益は▲12億円（対前年▲67億円）となりました。売上高については、新聞用紙・印刷情報用紙における需要の緩やかな減少と市況軟化により、減収となりました。営業利益については、コストダウン効果を上回る原燃料価格の高騰により、減益となりました。

2018年度は、売上高2,970億円（対前年▲84億円）、営業利益▲50億円（対前年▲38億円）を計画しています。

さらなるコストダウンの推進を見込むものの、需要

の減少、市況の軟化、原燃料価格の高騰等の影響により、減益を見込んでいます。



### ▶ 事業環境

新聞用紙、印刷情報用紙の国内市場は、ICT化による情報伝達手段の変化、新聞・書籍・雑誌発行部数の減少にみられる紙離れ、チラシ等広告需要の低迷が顕著となっており、今後も減少が続くことが予想されます。

また近年では国内市場とアジア市場の一体化が進み、国内市場においても輸入紙が一定規模のシェアを確立しています。そのような状況下、印

刷情報メディアカンパニーは、「さらなるコストダウンと国際競争力の強化」「高品質できめ細かいサービスの提供」を目指していきます。中国では紙事業・パルプ事業ともに営業利益の黒字安定化を目指します。

## ▶ 事業戦略

国内事業については、最適生産体制の再構築を含め、今後もコストダウンを継続的に進めていきます。海外事業では江蘇王子製紙の営業利益の黒字安定化を図

るためにコストダウン等、諸施策に取り組んでいきます。

### 海外事業の拡大

江蘇王子製紙は、2016年後半にフル生産となり、中国紙・パルプ市場の環境良化が追風となって、2017年は大幅な収益改善を実現しました。この収益を安定的に確保するため、引き続き販売力強化やコストダウンに取り組んでいきます。また、将来的な発展計画として、新たな投資も検討していきます。



江蘇王子製紙

### 国内事業の集中・進化

印刷情報メディアカンパニーでは国際的な競争力の強化を図るため、停機・生産移管による製造設備の集中化等様々な対策に取り組み、喫緊の課題を解消していきます。

- ・春日井工場4号マシン停機(2017年6月)
- ・O&Cアイボリーボード設立による富岡工場既存設備の有効活用(2017年10月営業生産開始)



O&Cアイボリーボード

## ▶ よりよい社会のために

ICT化の進展等により多様化する情報メディアのなかで、紙メディアが持つ情報の「見やすさ」「精緻さ」

「親しみやすさ」といった独自の特性が改めて見直されています。

新聞には、「記事を読むことにより培われる思考力」

「短時間で全体をつかむことができる一覧性」「記事の信頼性」「教養の構築」といった特性に加え、緊急災害時における「正確な情報提供の重要性」といった役割が注目されています。特に近年では、新聞

が提供する記事(情報)の信頼・正確性がますます重要になってきています。

本、雑誌には、紙の持つ「手触り感」「質感」により、見やすく、読みやすくといった効果を付与するとともに、シャープでキレイに再現された写真が、さらに感動を与える役割を担っています。

これからも紙メディアは、多様化するメディアの一端として、文化とコミュニケーションの発展に貢献していきます。



## その他事業

### ▶ 旭洋

王子グループの商事機能を担い、紙・パルプの他合成樹脂の原料および製品、包装資材、薬品、機械器具等、王子グループ内外の製品を扱う専門商社です。子会社には各種食品用プラスチック容器を製造するギンポーパック等があります。

紙・板紙、化成品の販売を事業の中核としつつも、より多様な分野へ活動を拡大すべく、2018年1月に旭洋紙パルプから旭洋へと社名を変更しました。



回収ペットボトルを原料に使用したプラスチックカップ（CO<sub>2</sub>削減）

### ▶ 王子物流

王子グループの工場や消費地倉庫から出荷される紙製品の輸送をベースに、倉庫機能、陸上機能、海上機能、港湾機能、国際物流機能といった様々なサービスを展開しています。トラック輸送から海上輸送・鉄道輸送へと切り替えるモーダルシフト等、よりクリーンな輸送方法を追求しながらトータルロジスティクスを提供します。



貨物を積載した車両ごと運べるRORO船

### ▶ 王子エンジニアリング

王子グループの技術を支える王子エンジニアリングでは、製紙プラントや環境・エネルギー分野で培ってきた技術や経験を活かし、設備提案から運用までワンストップで対応するエンジニアリングを展開しています。水環境事業における実用的な排水処理システム・淡水化処理システムの提案やバイオマス発電事業における燃料ハンドリング設備等、新たな分野への展開を積極的に推進していきます。



排水処理システム



### ▶ ホテルニュー王子

ホテルニュー王子では、ホテル事業と機内食事業を展開しています。北海道苫小牧市内の16階建てシティホテル「グランドホテルニュー王子」に加え、新千歳空港ケータリングビル内に所在する千歳機内食事業部工場で機内食の製造・搭載事業を行っています。

グランドホテルニュー王子

ホームページ：<http://www.newoji.co.jp/>



グランドホテルニュー王子